

進路通信、第8号です。3学期に入って模試・英検と、早くも頑張りどころが続いていますね。この後も総探の発表、学年末考査と、1年生の終わりに相応しく、頑張りどころが続いていきます。勉強や部活動など、それぞれの頑張りどころだけではなく、その場で全力を出せるよう、体調管理にもしっかりと気を使ってくださいね！

今回は英検を受験した直後ということで、『第3号』でお伝えした『英検の活用』についてのプレイバックをお送りします。「あの頃はよく読んでいなかったなあ」という人、是非今回はしっかりと読んで活用してくださいね！（紙面の都合上、今回は『先生たちが愛したキャンパス』はお休みです。ご了承ください。）

目指せ、2ランクアップ！英検の受験と活用について

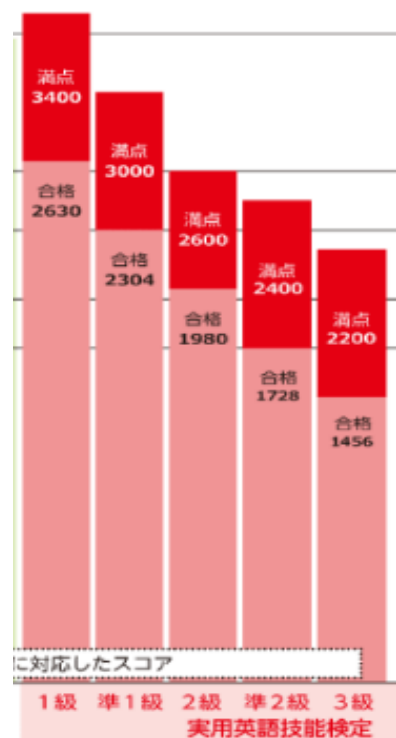
英検取得のススメ

英検を受験することにはいくつものメリットがあります。主なものとして、①自身の現在の英語力を客観的に数値化できる。②英検を目標にすることで、受験までの長い期間に中間目標を設定できる。③入試、就職活動等に活用できる。etc.

英検を受験すると、その級の合格とあわせて「CSE スコア」というものがつきます。Reading, Writing, Listening, Speaking の能力を数値化したもので、右の表が基準になっています。

例えば、理系の東京電機大学では、「英検準2級に合格していれば当日の英語の試験が免除」になります。文系では、「2級合格相当のCSE スコア1980」を所持していると、東洋大学や日本大学（経済・商学部）、専修大学などでは英語の試験が「80点扱い」になります。スコアに関しては年々基準値が高くなっている傾向にあり、「何点取っていれば、何級を持っていれば安心！」ということはありませんが、早くから取り組むにこしたことはありません。

今進路実現に向けて最後の頑張りを見せてくれている60期生の先輩方も、「英語が一番苦しんだ」＝「英検2級を2年生のうちに取っておくべき!」、「英単語だけでも1年のうちからやっておかないと、3年になってから本当に苦労する」などの振り返りの声が聞かれました。



皆さんも、英語を計画的に学習し、英検を取得しませんか？

（※上記の各大学での CSE スコアと換算得点は現時点のもので、皆さんが受験するまでに変更が生じる可能性がありますので、必ず最新情報を掴めるよう、アンテナは広く張ってください！）

※各種外部検定試験の中で、本校が英検を選んでいる理由は、比較的検定料が安いこと、生涯にわたって生きる資格であること、実施回数と実施会場が多いこと（特に S-CBT）、外部検定利用入試で利用できる大学が多いこと（汎用性）の4点です。皆さんも有効に活用してくださいね！

2ランクアップを目指せ！

『高校での英語は英検2級分伸びる』

これはこの記事を書いている人が、何度も聞かされた『通説』です。北海道でも埼玉でも、大分でも京都でも同じことを言う人に出会っているの、恐らくある程度の説得力がある目安なのでしょう。まだ級を持っていない人は、中学校卒業レベルが3級なので、高校では2級合格レベルまで行けるということです。既に準2級を取得している人であれば、準1級を狙えるということですね。1年第3回から2年第1回の時期に中間級を取得、2年第3回、3年第1回の時期に上記の目標を達成する、というのが理想形になります。

英検を取得するためには、表面で書いたCSEスコアの基準となる、Reading, Writing, Listening, Speakingの全ての項目で一定以上の点数を取る必要があります。「どれから手を付けたらいいだろう…」とか、「全部苦手、というか英語自体好きじゃないんだよな…」という人のために、『私が思う英語の能力』を図を使って説明します。

英語力のイメージ図



『日本語力』という地盤を固めた上に、『単語』と『文法』という土台を作り、

『読む力』『書く力』『聞く力』『話す力』のそれぞれを伸ばしていく、

というイメージですね。建物は地盤が緩ければ立てられません。土台が固まっていなければ崩れます。つまり、まずは『日本語』からでも多くの文章に触れて、文章の構成や色々な分野の知識を蓄える。次いで『単語』と『文法』をきちんとやって基礎力を高める。そして、音読や日記を書く、会話練習などで『読み書き聞き話す』力をつけていく。これが英検に限らず、英語の力を伸ばしていく上で一番着実な方法でしょう。

何から始めるべきでしょうか？

当然、『単語』！

草加高校では、1秒1単語というやり方をおススメしています。Google等の検索サイトで調べてもよし、Youtubeで調べれば解説動画もあります。是非活用してくださいね！